

理科だより

発行

平成21年5月30日

編集 RIKADAI SUKIMAN

昭和新山

北海道有珠郡壮瞥町に「昭和新山」という火山があります。地学でよく引き合いに出されますし、自分自身も学生時代に立ち寄ったことがあります。

手塚治虫のブラックジャック11巻に、「昭和新山」というテーマの話があります。とても珍しい山なので、岩石を採取に行った男が、岩場に手を挟まれ、抜けなくなって大騒動を起こすというストーリーでした。とにかく、山が一つ出来上がるには、普通何十万年とか、何千万年とかかるわけで、人間が生きているわずか100年の間に平らな所（もともと畑）から山が出来ることは、確率的にもものすごい低く、とても珍しいことなのです。

昭和新山が出来たのは、ちょうど戦時中であつたこともあり、写真撮影が困難でした。（機密を守るため）

地殻変動としてはとても珍しいのですが、何しろ記録が少ない。ところが、当時郵便局に勤めていた「三松正夫さん」という方が、定点スケッチをしており、彼が山の成長の様子を記録していました。今では「ミマツダイヤグラム」といい、世界的に有名な記録になって



います。三松正夫さんの書いた著書「昭和新山物語」という本がありますので、読んでみてはいかがでしょうか。

それにしても、現在のようにデジタルカメラ、GPS、人工衛星など、最新の機械がチャンスを狙っているときには山が出来ず、写真機など何もないときに山ができるとはなんとも皮肉な感じがします。自分自身も、昭和新山を訪れたのは、ほんの思いつきで、カメラも何も持ち合わせていなかったもので、写真が一枚もありません。（これ以来、いつもカバンの中にカメラを入れるようにしてはいるのですが）

昭和新山では、石英成分の多い火山岩なので、粘り気が強く、爆発すると危険な火山です。すぐ隣に聳え立つ有珠山なども、かつて噴火して多大な被害を出しました。

地学でよく引き合いに出される九州地方の「雲仙普賢岳」も石英

成分が多いのですが、雲仙の岩石は「デーサイト」と言われています。デーサイトは、



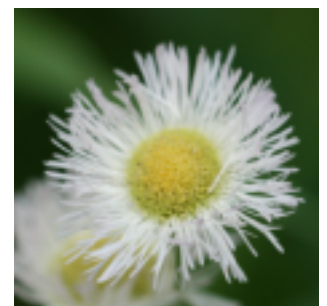
流紋岩よりもやや石英が少ないのですが、それでもマグマの粘性が大きいので噴火すると火砕流を起こし、危険です。

火砕流とは、高温の火山細碎物と火山ガスとが時速数百Kmで流れ下る現象で、とても危険です。以前、何かのドキュメンタリー番組で、火砕流に巻き込まれたカメラマンのTVカメラが発見され、熱で壊れているものを最先端の技術で映像を再現するという番組を見ました。聴衆の危険なものを見たいという欲求と、TVが視聴率を上げなければならないという欲求。それらの事が、警察や消防の避難勧告を受け入れなかった。地元の警察や消防の方達も、危険にさらされているカメラマン達を見捨てるわけにも行かず、共に火砕流に巻き込まれてしまった。そのような内容でした。とても考えさせられるものがありました。

ハルジオン

北アメリカ東部原産の多年草。大正年間（1920年前後）に帰化し、関東の都会や郊外にひろがりつつある。全体にヒメジオンに似ているが、茎は中空、茎葉は基部が耳形となって茎を抱き、頭花は彼より大型で径2cmに近いが、舌状花はかえって細くかつ開花前に紅色に染まり、頭花は開花前はうつ向いてしおれたような形になっている。花季もまた約1月先行するなどの差異がある。ヒメジオンよりは性質が頑強で、一たん種子が落ちると、その冬には根葉が地をおおってしまうほどに繁殖力も強い。

（牧野富太郎より抜粋）今、たくさん咲い



ているので、調べてみたら、本当に中が中空でした。しかし、これは小学校で習うことだと後で知りました。「ヒメジオン」という類似種もあるようです。